

合唱

戸ノ下 達也

益々混沌とする国内外の情勢に直面した2025年は、敗戦80年という歴史に向き合う一年だった。

2025年も、プロ合唱団が果敢な活動を展開した。

2025年から水戸博之が常任指揮者に就任した東京混声合唱団は、1月に第266回定演（指揮・キハラ良尚）、2月に第267回定演（指揮・川瀬賢太郎）と大阪定演No.29、5月にコン・コン・コンサート（指揮・相澤直人）、8月に東混八月のまつり46（指揮・山下一史）、9月に東混オールスターズ～田中信昭を偲んで～、11月に第268回定演（指揮・水戸博之、山田和樹）、12月に住友生命いずみホール定演No.30等の主催公演を開催した。新作は、キハラ良尚、信長貴富に委嘱されている。

室内合唱団日唱は、4月に第40回定演「受け継がれる魂」（指揮・中館伸一）を開催した。

神戸市混声合唱団は、1月に「阪神・淡路大震災30年メモリアルコンサート」（指揮・佐藤正浩）、3月に春の定期演奏会「阪哲朗の合唱」（指揮・阪哲朗）、5月に「合唱コンクール課題曲コンサート」（指揮：佐藤正浩）、8月に「いろとりどりの音楽会」（指揮・坂入健司郎）、9月に秋の定期演奏会「人間の顔～戦後80年に捧ぐ」（指揮・佐藤正浩）、神戸市室内管弦楽団合同定演で11月にベートーヴェン「ミサ・ソレムニス」（指揮・鈴木秀美）のほか、地域連携として「あなたに贈るコンサート」を2回開催した。

びわ湖ホール声楽アンサンブルは、3月に第80回定演「笑いと涙」（指揮とピアノ・クリスティアン・コッホ）、8月に「美しい日本の歌」（指揮・本山秀毅）、9月に「田中信昭氏追悼公演」、11月に第81回定演と第16回東京公演「レクイエム」（指揮・阪哲朗）等の主催公演のほか、「びわ湖の春音楽祭2025」では滋賀県高等学校合同合唱団との共演や「びわ湖ホール声楽アンサンブル公演」（指揮・村上寿昭）も開催した。「オペラへの招待」シリーズは1月にヴァイル「三文オペラ」（指揮・園田隆一郎）、びわ湖ホールプロデュースオペラは3月にコルンゴルト「死の都」（指揮・阪哲朗）、7月にレハール「メリー・ウィドウ」（指揮・阪哲朗）を開催した。また、「びわ湖ホール音楽会に出かけよう！」（指揮・阪哲朗）は、5月から6月に6日間12公演が実施された。

ヴォクスマーナ（Vo human）は、3月の第53回定演で斉木由美と池田拓実、10月の第54回定演で福士則夫と三輪真弘、毎回のアンコールピースは引き続き伊佐直治の委嘱

新作を初演した。

東混と神戸市混声は、引き続きアウトリーチも積極的に取り組んだ。東混は、文化庁の学校巡回公演8地域の10校、その他のアウトリーチを6地域で、また神戸市混声は、2025年度から神戸市内の特別支援学校（3校、延べ7公演）でアウトリーチを開催した。中学校部活動の地域展開など、文化芸術活動と地域連携が喫緊の課題となっている今、前述のびわ湖ホールも含め、プロ合唱団の取組みは、更なる深化が期待される。

オーケストラ演奏会では、敗戦80年を意識した作品が紡がれている。

1月には、仙台フィル第378回定演でホルスト「惑星」（コロディア・プラネテス）、兵庫芸術文化センター管弦楽団（以下、PACオケ）第156回定演でマーラー交響曲第8番「千人の交響曲」（マーラー「千人の交響曲」合唱団）。

2月には、大響第277回定演でヴェルディ「運命の力」（大響コーラス）、関西フィル第352回定演でベートーヴェン「ミサ・ソレムニス」（関西フィル合唱団）、京響第697回定演でラヴェル「ダフニスとクロエ」（京響コーラス）、東京シティ・フィル第376回定演で伊福部昭「釈迦」（東京シティ・フィル・コア）、都響第1016回定演でショスタコーヴィチ交響曲第13番「バービ・ヤール」（エストニア国立男声合唱団）。

3月には、神戸市室内管第166回定演でヴォーン・ウィリアムズ「野の花」（神戸市混声）、東京シティ・フィル第377回定演でヴェルディ「レクイエム」（東京シティ・フィル・コア）、日フィル第768回定演でマーラー交響曲第2番「復活」（東京音大）、読響第646回定演でベルク「ヴォツェック」（新国合唱団、TOKYO FM少年合唱団）。

4月には、N響第2036回定演でマーラー交響曲第3番（東京オペラシンガーズ、NHK東京児童合唱団）、大フィル第587回定演でエルガー「ゲロンティアスの夢」（大フィル合唱団）、関西フィル第354回定演で伊藤康英「ぐるりよど」（関西フィル合唱団）、神戸市室内管が第167回定演でヴァスクス「われらに平和を与えたまえ」（神戸市混声）、札幌が第668回定演でマーラー交響曲第2番「復活」（札幌合唱団他）、新日フィル第662回定演でバーンスタイン「ミサ」からと交響曲第3番「カディッシュ」（晋友会合唱団、東京少年少女合唱隊）、都響第1020回定演で黛敏郎「涅槃交響曲」（東

混), 山響第324回定演でメンデルスゾーン「夏の夜の夢」(山響アマデウスコア)。

5月には、オーケストラ・アンサンブル金沢第493回定演でハイドン「天地創造」(コーロ・リベロ・クラシコ), 九響第430回定演でプッチーニ「トスカ」(九響合唱団, 筑紫女学園中学校合唱部)。

6月には、東京シティ・フィル第379回定演でヴォーン・ウィリアムズ「我らに平和を与えたまえ」(東京シティ・フィル・コア), 名フィル第535回定演で尾高惇忠「春の岬に来て」(名大コーロ・グランツェ), 東響第731回定演でロッシェニ「スターバト・マーテル」(東響コーラス)。

7月には、九響第432回定演でブルックナー「テ・デウム」とモーツァルト「アヴェ・ヴェルム・コルプス」(九響合唱団), 東響第732回定期でブリテン「戦争レクイエム」(東響コーラス, 東京少年少女合唱隊), 日フィル第772回定演でホルスト「惑星」(東京音大)。

8月には、京響第703回定演でモーツァルト「レクイエム」(京響コーラス), PACオケ第161回定演でブリテン「戦争レクイエム」(ブリテン「戦争レクイエム」合唱団)。

9月には、大響第282回定演でヴェルディ「レクイエム」(大響コーラス), 神奈川フィル第407回定演でリスト「ファウスト交響曲」(神奈川ハーモニッククワイア), 紀尾井ホール室内管第114回定演でメンデルスゾーン「夏の夜の夢」(東京公演/TOKYO FM少年合唱団, 大阪公演/大阪すみよし少年少女合唱団), 東響第734回定演でバッハ「マタイ受難曲」(東響コーラス), 東京シティ・フィル第381回定演でヴェルディ「ドン・カルロ」(東京シティ・フィル・コア), 日本センチュリー響第292回定演でラヴェル「ダフニスとクロエ第2組曲」(日本センチュリー合唱団), PACオケ第162回定演でブルックナー「キリストは従順であられた」(ブルックナー「テ・デウム」合唱団)。

10月には、N響第2046回定演でストラヴィンスキー「詩篇交響曲」とメンデルスゾーン交響曲第2番「讃歌」(スウェーデン放送合唱団), 関西フィル第359回定演でヴェルディ「レクイエム」(関西フィル合唱団)。

11月には、N響第2048回定演でホルスト「惑星」(東京オペラシンガーズ), 第2049回定演でラヴェル「ダフニスとクロエ」(二期会合唱団), 群響第613回定演でマーラー交響曲第8番「千人の交響曲」(群響合唱団, 藤岡市立小野小学校合唱部), 神戸市室内管第170回定演でベートーヴェン「交響曲第9番」(神戸市混声), 日フィル第776回定演でプーランク「スターバト・マーテル」(東京音大他)。

12月には、大フィル第593回定演でラヴェル「ダフニスとクロエ」(大フィル合唱団), 中部フィル第101回定演でベートーヴェン「ミサ・ソレムニス」よりと交響曲第9番(NUAハルモニア合唱団, 名古屋芸大, こまき第九2025特別合唱団), パシフィックフィルハーモニア東京(以下, PPT)第178回定演でベートーヴェン交響曲第9番(武蔵野

音大, PPTクワイア), PACオケ第165回定演でベートーヴェン交響曲第9番(ベートーヴェン「第九」合唱団)を演奏した。

季節イベントでは、「東京・春・音楽祭」で、合唱の芸術シリーズNo.12ベートーヴェン「ミサ・ソレムニス」(東京オペラシンガーズ), 第45回草津国際音楽フェスティバルでは、サリエリ「サルヴェ・レジーナ」「誕生日カンタータ」とJ・シュトラウスII「全世界を統べられる神よ」(草津アカデミー合唱団)が演奏された。

合唱の全国組織も独自の活動を展開し、文化振興施策を推進した。

一般社団法人全日本合唱連盟(理事長・長谷川冴子)は、3月に横浜市でJCAユースクワイア, 8月に山形市で全日本おかあさんコーラス全国大会, 全日本合唱コンクール(10月に富山市で中学校・高等学校部門, 11月に浜松市で小学校部門と佐賀市で大学職場一般部門), 12月に藤岡市でこどもコーラス・フェスを開催したほか、合唱講座「はじめてのコーラス」を4月, 7月, 9月, 12月に各2回開催した。また中学校の部活動地域展開対応で3月にビギナー指導者養成講座, 6月に実践事例研究セミナーを開催した。

一般社団法人日本合唱指揮者協会(理事長・名島啓太)は、6月13日から15日に、セミナーや四つのコンサートで構成された「JCDA合唱の祭典2025~第25回北とびあ合唱フェスティバル~」を開催したほか、テーマ別のオンライン講座「JCDAコーラスアカデミー」を継続実施した。

一般社団法人音楽樹(理事長・藤井宏樹), 音楽樹は、毎年GWの「Tokyo Cantat」で、第9回若い指揮者のための合唱指揮コンクール, コンサート2公演, 合唱指揮マスタークラス等を開催した。また3月にセミナー「春のアトリエ」を3日間, 8月の「ハケ岳ミュージックセミナー」は中川俊郎をテーマ作曲家として4日間, 11月に「コロ・フェスタ2025in桐生」を開催した。

一般社団法人東京国際合唱機構(理事長・松下耕)は、7月に第一生命ホールで「第7回東京国際合唱コンクール」と「第11回日本国際合唱作曲コンクール」, 8月に横浜みなとみらいホールで「うたフェスJAPAN'25」, 11月に第一生命ホールで「二十億光年のまつり」を開催した。

合唱振興の取組みが継続した一年だったといえよう。

戸ノ下達也(とのした・たつや)

1963年東京都生まれ。立命館大学産業社会学部卒業。考察課題は近現代日本の社会と音楽文化・文化政策。

著書に『戦時下日本の娯楽政策』(青弓社), 『「国民歌」を唱和した時代』(吉川弘文館), 『音楽を動員せよー統制と娯楽の十五年戦争』(青弓社), 編著書に『日本の合唱史』(青弓社)など。

第5回JASRAC音楽文化賞受賞。

都留文科大学非常勤講師。

一般社団法人全日本合唱連盟理事, 一般社団法人日本音楽著作権協会理事。